

平成28年10月17日

青森市政記者会 様

青森市市民政策部  
政策推進課長

「中核市サミット2016 inいわき」及び「中核市市長会議 inいわき」  
の開催について

このことについて、中核市市長会から別紙のとおり情報提供がありましたので、  
お知らせします。

なお、詳細につきましては、別紙のお問合せ先の担当者へご連絡くださいますよ  
うお願いします。

問合せ先

青森市市民政策部政策推進課

担当 副参事 福島 清裕

主査 加藤 耕史

電話 017-734-2374

平成28年10月17日

報道機関各位

中核市市長会  
会長 奈良市長 仲川 げん  
( 公 印 省 略 )

### 「中核市サミット2016 in いわき」及び「中核市市長会議 in いわき」の開催について

本格的な地方分権の時代を迎える中、中核市が抱える共通の諸課題について議論を深め、その活動と成果を全国に発信するとともに、地方分権改革の推進と中核市制度の充実強化を図るため、いわき市及び中核市市長会の主催による「中核市サミット2016 in いわき」を下記のとおり開催いたしますのでお知らせいたします。

また、中核市サミット翌日には、「中核市市長会議 in いわき」を開催いたしますので、併せてご案内申し上げます。

#### 記

#### 1 中核市サミット2016 in いわき

- (1) 日時 平成28年10月27日(木) 午後1時00分から
- (2) 会場 ホテルハワイアンズ  
福島県いわき市常磐藤原町蕨平50番地
- (3) 内容 別添【チラシ】参照

#### 2 中核市市長会議 in いわき

- (1) 日時 平成28年10月28日(金) 午前9時30分から午前11時まで
- (2) 会場 いわき芸術文化交流館「アリオス」 2階 中劇場  
福島県いわき市平字三崎1番地の6
- (3) 内容 プロジェクト活動報告、中核市市長会提言書等の採択 ほか

#### 3 取材希望 取材を希望される社は、10月24日(月)正午必着で、別紙「報告様式」により中核市市長会東京事務所までご提出願います。

なお、28日の市長会議終了後、いわき芸術文化交流館「アリオス」3階「中リハーサル室」にて、**役員市長及び開催市長による記者会見**を予定しております。

#### 4 その他

この会議で採択された提言については、後日、政府関係機関へ提言活動を実施する予定です。

中核市市長会

会 長 奈良市長  
副会長 青森市長  
横須賀市長  
豊田市長  
倉敷市長  
宮崎市長  
監 事 前橋市長  
大津市長

なかがわ げん  
仲川 博  
しかない ひろし  
鹿内 博  
よしだ ゆうと  
吉田 雄人  
おおた としひこ  
太田 稔彦  
いとう かおり  
伊東 香織  
とじき ただし  
戸敷 正  
やまもと りゅう  
山本 龍  
こし なおみ  
越 直美

サミット開催市 いわき市長 しみず としお  
清水 敏男

【中核市サミットについてお問い合わせ先】

中核市市長会いわき市サミット開催事務局

担 当：田子、本田

〒970-8686

福島県いわき市平字梅本21番地

(いわき市 総合政策部政策企画課内)

TEL:0246-22-7410 FAX:0246-24-4300

E-mail: summit\_iwaki@city.iwaki.fukushima.jp

【中核市市長会議についてお問い合わせ先】

中核市市長会東京事務所

担 当：鵜飼

〒102-0093

東京都千代田区平河町2-4-2

全国都市会館7階

TEL:03-6268-9317 FAX:03-3234-5945

E-mail: shityoukai@chuukakushi.gr.jp

送信用紙不要

別紙「報告様式」

中核市市長会東京事務所 あて  
(FAX:03-3234-5945)

10月27日「中核市サミット2016 in いわき」及び  
10月28日「中核市市長会議 in いわき」の取材について

報道機関名・連絡先	氏名	取材日(○)を付けてください
報道機関名		10/27・10/28
		10/27・10/28
		10/27・10/28
連絡先(電話番号等)		10/27・10/28
	— —	10/27・10/28

(注意事項)

- (1) 機材の取扱者も含め、取材に来られる全ての方をご記入ください。
- (2) 記載内容に基づき、当日受付いたします。

※10月24日(月)正午までにご連絡ください。





【久之浜・大久地区】  
波立海岸



【小川地区】  
いわき市立草野心平記念文学館



【川前地区】  
JR磐越東線



【好間地区】  
いわき好間中核工業団地



【四倉地区】  
とまとランドいわき



【内郷地区】  
国宝白水阿弥陀堂

## CHUKAKU-SHI SUMMIT 2016 IN IWAKI

# 中核市 サミット 2016 in いわき



【平地区】  
いわき駅前再開発ビル「ラフ」



【遠野地区】  
金澤翔子美術館



【三和地区】  
ぶな石



【勿来地区】  
勿来海水浴場

共に創る未来へ  
～中核市から切り拓く“この国のかたち”～

2016  
10/27 thu 13:00～  
(開場:正午)

会場 ホテルハイアonz  
〒972-8326  
福島県いわき市常磐藤原町藤平50  
TEL:0570-550-550



【田人地区】  
石割桜



【常磐地区】  
スパリゾートハイアonz



【小名浜地区】  
アクアマリンふくしま

主催 中核市市長会・いわき市  
後援 総務省・福島県・全国市長会  
全国市議会議長会・中核市議会議長会

お問い合わせ 中核市市長会いわき市サミット開催事務局(いわき市総合政策部政策企画課内)  
〒970-8686 福島県いわき市平字梅本21番地  
TEL:0246-22-7410 FAX:0246-24-4300 メール:summit\_iwaki@city.iwaki.fukushima.jp



# 中核市サミット

## 共に創る未来へ

～中核市から切り拓く“この国のかたち”～

中核市は、平成8年に発足以来、社会情勢に対応しながら、地域の中核的都市として、地方分権の推進と地域の発展に向けて大きな役割を果たしてきました。

現在、国においては、少子高齢化の流れに歯止めをかけ、誰もが活躍できる社会を創って行くため、「希望を生み出す強い経済」、「夢を紡ぐ子育て支援」、「安心につながる社会保障」の「新三本の矢」を柱とした「ニッポン一億総活躍プラン」を閣議決定し、誰もが生きがいを感じられる社会創りを目指しています。

少子高齢化・人口減少という大きな課題を抱える地方においても、国と連携して一億総活躍社会の実現に貢献することは極めて重要であり、市民をはじめ地域、企業、各種団体、行政等様々な主体が全員で魅力あふれる社会を実現するために持てる力を最大限発揮し、地方から日本の活力を生み出していく必要があります。

この中核市サミットでは、中核市市長が一堂に会し、人口減少の克服と地域活性化の諸施策について議論を深め、その活動と成果を全国に発信するとともに、誰もが活躍できる社会の実現を図ることを目指します。

# 2016 in IWAKI



### タイムテーブル

12:00～	受付
13:00～13:30	開会式
13:35～14:15	基調講演
14:30～16:40	分科会
16:50～17:45	全体会議・閉会式

## 基調講演 中核市に期待する



〈講師〉  
東京大学 名誉教授  
神野 直彦氏

東京大学卒業後、日産自動車株式会社に入社。その後、大阪市立大学経済学部助教授、東京大学経済学部助教授、同教授を経て、東京大学大学院経済学研究科教授、関西学院大学教授を歴任。2009年から現職。

また、社会保障審議会年金部会会長、地方分権有識者会議座長、地方財政審議会会長など多数の審議会等委員を務める。

著書に『「分かち合い」の経済学』『税金常識のウソ』など多数。



### 第1分科会 地域住民を主体とした防災活動について

減災と男女共同参画 研修推進センター 共同代表

浅野 幸子氏

東京都出身。阪神・淡路大震災でNGOスタッフとして4年間支援活動後、(財)消費生活研究所、全国地域婦人団体連絡協議会で働きながら、法政大学大学院政策科学専攻修士課程修了。現在、現職のほか、早稲田大学地域社会と危機管理研究所招聘研究員、専修大学非常勤講師。内閣府の避難所ガイドライン(平成28年4月)の策定委員など、国・自治体の防災政策にも関わってきた。

東日本大震災以降、自助、共助及び公助があわさって初めて大規模広域災害後の災害対策がうまく動くことが強く認識され、市町村内の一定の地区の居住者及び事業者(地区居住者等)が行う自発的な防災活動に関する地区防災計画制度が新たに創設されるなど、地区住民の自主的な活動が求められている。

一方で、地区や自主防災組織の運営や活動において、高齢化や昼間の活動要員の不足、活動に対する住民意識の不足などの課題も指摘されていることから、これらの課題を解消し、地域の様々な団体等と連携し、地域における防災力が一層向上する方策等について検討を行う。



### 第2分科会 女性活躍の推進について

一般財団法人女性労働協会 会長

鹿嶋 敬氏

茨城県生まれ。日本経済新聞編集局次長兼文化部長、編集委員、論説委員等を経て、平成17年から実践女子大学人間社会学部教授。平成27年4月から現職。

内閣府男女共同参画会議議員、東京都女性活躍推進会議会長等を兼務。平成23年から28年3月まで内閣府監視専門調査会会長。第4次男女共同参画基本計画の計画策定専門調査会会長を務めた。

人口減少、少子高齢化の進行により、活力ある社会を持続するためには、これまで以上に女性の活躍が求められている。国においても自らの意思によって職業生活を営み、又は営もうとする女性の個性と能力が十分に発揮されることが一層重要であることから、女性の職業生活における活躍を推進し、豊かで活力ある社会の実現を図ることを目的として、平成27年8月に「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)」が成立し、平成28年4月より完全施行されたところである。

このような動きを踏まえ、中核市が果たすべき、女性の活躍できる社会づくりに寄与する方策などについて検討を行う。



### 第3分科会 地域振興に貢献する観光産業について

観光地域づくりプラットフォーム推進機構 代表理事  
事業構想大学院大学 客員教授

大社 充氏

1961年生まれ。京都大学在学中、アメリカンフットボール部QBとして京大初の全国制覇に貢献。松下政経塾入塾後、エルダー・ホステル協会の創設に参画。現在、NPO法人グローバルキャンパス理事長。このほか、国土交通省「成長戦略会議」、経済産業省「産業構造審議会」、内閣官房「まち・ひと・しごと創生会議」等の委員を務める。

著書に『体験交流型ツーリズムの手法』『奇跡のプレイボール～元兵士たちの目撃野球～』『地域プラットフォームによる観光まちづくり』など多数。

訪日外国人旅行者数については、ビザ緩和や免税制度の拡充などの大胆な改革に取り組んできた結果、平成27年度には年間2,000万人を突破し、今年度についても各月の過去最高記録を更新し続けている。

この結果を受け、国においては、新たに2020年の訪日外国人旅行者数4,000万人といった目標のほか、観光が「地方創生」の切り札であるとの認識に立ち、2020年の地方部での外国人延べ宿泊者数7,000万泊などの高い目標を掲げ、各地の多様な観光資源を磨き上げ、国際競争力のある生産性の高い観光産業へ変革し、すべての旅行者が「旅の喜び」を実感できるような社会を築いていくため、さまざまな施策を講じている。

そこで、これらの目標を達成するために、地域の核となる中核市としてできる施策などについて議論を行う。

傍聴  
できます

希望される方は、10月17日(月)〈必着〉までに、はがき、FAX、メールで、①住所、②氏名(ふりがな)、③電話番号、④傍聴を希望する分科会(第2希望まで)、⑤手話通訳などの希望者はその旨を記入の上、お申し込みください。

\*申し込み多数の場合は抽選となります。 \*後日、参加証を送付します。 \*当日は、質問・意見等の発言はできません。